

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◆◆◆ No.0575 ◆◆◆

20/03/11

【ドル弱気ムード強いが、サイクル的には逆に「買い場」か!?】

新型コロナウイルスの話題が依然として市場を席卷している。ただ、その内容はというと、当初からだいぶ変遷したようで、たとえば感染者の話でいえば中国本土から感染拡大が顕著になっている欧米へ。また、政治や経済への影響及び、それに対する各国対応策などが市場の関心を集めている感を否めない。そうしたなか、ドル/円は今週初め9日に101.19円の安値を示現しているが、これを大底と捉える向きは、まだ少数派となっている。先行きについて、サイクルの観点から一度検証しておきたい。

◎今年3-4月、「中期波動」と「短期波動」でドルボトム示現の公算

年明け15日の当レター、恒例となっている「年間変動率」を参考にした年間相場見通しで、筆者は「ドル強気」あるいは「中立」と指摘したうえで、2020年のドル/円コアレンジは「103-118円」と予想していた。したがって、改めて指摘するまでもなく、早くも予想を外した感を否めないのだが、実は前記15日付の当レターではたとえ「中立」予想であっても、2020年中に1ドル=100円割れの可能性についてデータ的に指摘していた(詳細はバックナンバーを参考にされたいが、数値上ドル安は「99.96円」までありうるとの結論だった)。つまり、年明けのレターにおいては、筆者が勝手に予想を改変し、間違った結論を導き出したと言えるかもしれない。大いなる反省材料だ。

ともかく、ドル/円は今週初めの9日に101.19円まで下落。単純に、今年ドル最安値を大きく更新したといったことにとどまらず、過去3-4年推移していた104-115円といった長期のレンジ取引から下方方向に逸脱した感があり、「新たなステージに入った」と指摘する市場参加者の声も少なくない。個人的に可能性は低いと予想するが、日本の財務省介入を試す動き、「1ドル=100円割れ」などを今後うかがうことも必ずしも否定出来ないだろう。さらなるドル安の進行にも要注意だ。いずれにしても、ドル/円相場は依然としてドル安・円高リスクが非常に強い状況にあることは疑いない。

しかし、実は昨年9月18日付など、過去に何度かレポートしている「3つのドル安サイクル」から相場を見た場合、若干気になる結論、具体的に言えば、大方の見方と裏腹に今月中にドルは当面のボトムをつける可能性も取り沙汰されている。マーケット総弱気のなかの、リスク要因として頭のなかにとどめておいて損はないのかもしれない。以下で具体的に見ていこう。

ドル/円には幾つものサイクルが存在するが、ドルの安値と次のドル安値を結んだ「ドル安サイクル」は、期間により大きく3つあることが確認されている。昨年9月18日付の当レターに掲載した短期から長期波動についてのサイクルを、修正を加えたのち再掲載しておく(赤字は今回修正を加えた部分、かつともに「暫定値」)。

長期波動(66ヵ月)	中期波動(20-25ヵ月)	短期波動(10-15ヵ月)
・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57
	↓	・12/09/13 77.13(11ヵ月)
	・13/06/13 9375(19ヵ月)	左同 (9ヵ月)
	↓	・14/10/15 105.20(16ヵ月)
	・15/08/24 116.15(26ヵ月)	左同 (10ヵ月)
	↓	・16/06/24 98.65(10ヵ月)
・16/06/24 98.65(56ヵ月)	・16/06/24 98.65(10ヵ月)	・17/09/08 107.33(13ヵ月)
	↓	・18/03/26 104.57(7ヵ月)
	・18/03/26 104.57(20ヵ月)	・19/01/03 104.10(10ヵ月)
	↓	・20/03/09 101.19(14ヵ月)
	・20/03/09 101.19(24ヵ月)	
2021年ごろ?	本来は19年の年末から20年始にかけて	

3つ存在するドル安サイクルのうち、「長期波動」はともかくとして、前記したように「中期波動」と「短期波動」からみて、9日に示現したドル安値 101.19 円は日柄的にも價格的にも、非常にしっくりするボトムレベル。また、足もとのドル/円はやや底堅いが、仮にここからドルが再下落をした場合でも、おそらくは月内もしくは来月中にズレ込むこともありうるが、それでもドルは短くても1年程度という当面の安値を達成する公算が大きいと言えそう。日柄的にはドルの底入れも近い可能性がある。

筆者は、決して「逆張り」を推奨するわけではないし、リスクが小さくはないことも承知している。しかしながら、新型コロナウイルスの影響もあり、金融市場全般が大荒れで「総弱気」となっているだけに、ここでは敢えて長期的なドルの強気見通し、年内程度というタームでいえば絶好のドル買い場を迎えている気もしないではないと指摘しておく。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter